

第106回宇宙政策委員会・第33回基本政策部会合同委員会 議事録

1. 日時：令和5年5月26日（火） 9：00－10：30

2. 場所：中央合同庁舎4号館共用1208特別会議室

3. 出席者

（1）委員

・宇宙政策委員会

後藤委員長、遠藤委員、片岡委員、櫻井委員、篠原委員、白坂委員、鈴木委員

・基本政策部会

白坂部会長、石田委員、臼田委員、漆間委員、片岡委員、栗原委員、櫻井委員、篠原委員、中須賀委員、南委員

（2）事務局

内閣府宇宙開発戦略推進事務局

河西事務局長、坂口審議官、滝澤参事官、加藤参事官、齊藤参事官、藤田参事官、上野参事官

（3）関係省庁

内閣官房国家安全保障局：徳永審議官

内閣官房内閣情報調査室内閣衛星情報センター管理部総務課：高橋課長

総務省国際戦略局宇宙通信政策課：小川課長

文部科学省大臣官房：永井審議官

文部科学省研究開発局宇宙開発利用課：上田課長

経済産業省大臣官房：恒藤審議官

防衛省防衛政策局：安藤次長

4. 議事（○：意見等）

（1）基幹ロケットについて

<文部科学省より説明>

○鈴木部会長 ALOS-4を上げる場合は30形態でないといけないということなの  
でしょうか。それとも、例えば24なり22なりという選択肢はあるのかどうかと  
いうのだけ教えてください。

○文部科学省 30形態である必要は必ずしもなく、22形態でも打ち上げられるという確認がなされています。

○白坂部会長 ロジックといたしますか、考え方は理解できます。この考え方でいいと認識しております。1つだけ教えていただきたいのは、30形態でないと打ち上げられない、今、計画上に乗っている衛星というものはどこになるのかというのを知りたいのです。今のところ、補足で書いてくださっているものを全部見る限り、ALOS-4も30でなくていいということであれば、書いていただいたところは少なくとも全て22あるいは24で行けるという理解ですが、その後はいかがでしょうか。

○文部科学省 30形態も引き続きニーズがあると考えています。宇宙基本計画工程表の直近のミッションは22形態、24形態ですけれども、それ以降、ただし、具体的にどれがどれとは決まっていらないのです。30形態のよさというのは、一つは22、24に比べて比較的成本優位性があるということ。また、太陽同期軌道などに打ち上げる際を含めて、打ち上げ形態の柔軟性を確保するということがございまして、私ども文科省あるいはJAXA両方、30形態の開発は引き続き必要と考えてございます。

○白坂部会長 競争力の観点でも要ることは認識しておりますので、それは継続はやめる必要はないと全く思っておりまして、政府の計画上へのインパクトだけを確認するつもりでした。

○遠藤委員 私も方針に賛同いたします。一点質問なのですけれども、文科省と防衛省に絡むかもしれませんが、XバンドをH3で打ち上げようと判断するまでに、多分空打ちで成功していなければならないと思うのですけれども、その時期的なものというのはどの辺りになるのでしょうか。

○文部科学省 まずは次の試験機2号機まで今回ペイロードも含めて計画を具体化し、この方向性で進めたいと思います。これ以降、Xバンドも含め、様々な国の衛星があるということは承知した上で、こちらをどういうふうに調整していくか、今後だと考えておりますので、私どもとしてはまずこの試験機2号機の早期の再開が大事だと思っておりますのでございます。

○防衛省 防衛省といたしましては、影響が最小限となるよう、整備に係るスケジュールの見直しを適切に実施していきたいと考えているところでございます。

○篠原委員 非常にこのロケットの打ち上げは急ぎたいけれども、失敗はしたくないというはざまの中で御検討いただいたこと、非常に評価いたします。

このケース1、2等で比較されての10ページにあるペイロードを搭載する方向性が適切ではないかというのは、非常に私もそう思いましたが、これはケース3のような、多分説明がすごく難しいと思うのですけれども、ALOS-4ではな

い、もうちょっと他の計画の衛星、もしくは飛び込みで完全なペイロードではないけれども、実験衛星的な第2の衛星を乗っけてテストするというケース3は全然論外なのでしょうか。

○文部科学省 ロケットの準備作業は各種いろいろなものがございまして。ペイロード側の準備もございまして、ロケット側の準備もあるということで、幾つかあるのですけれども、一つは飛行経路をきちんと解析して、ミッション解析といいますけれども、そういった解析作業を行って、きちんと打ち上げられるか、あるいは落下予想区域も含めて安全性が確保できるかといったことがございまして。これは、事前に海上警戒区域も上空警戒区域も設定する観点から、数か月前ぐらいにはこういった申請準備もなされてなくてはならない。その申請準備の前にこういった解析作業も数か月かけて行わなくてはならないということがございまして、全く違う衛星を乗せる場合は非常にこの解析作業に時間がかかることになろうかと考えます。

一方で、今回、性能確認ペイロードを乗せるといったことございましてけれども、飛行計画そのものはALOS-3と同様、すなわち太陽同期軌道に乗せていくことで考えていまして、この観点から言うと、全体的に短縮が可能、原因究明ファクターを除いて最速での準備が可能な形態が今の形態と考えています。

また、その上ですけれども、重さ自体はALOS-3と全体は同じになるのですが、一部を使ってピギーバック衛星を搭載する可能性については引き続き検討していきたいと考えてございまして。

○篠原委員 最後のピギーバックのイメージは私もちよっとあったので、可能であれば検討いただければと思います。

○山川理事長 文部科学省からの回答のとおりなのでございましてけれども、イプシロンに関しては原因究明がなされ、イプシロンSに向けて、今、鋭意進めつつあるところでございまして。

それから、H3に関しては引き続き原因究明をして、その上で水平展開まで早めに持っていきたいと思っています。現在かなり絞られたところではございましてけれども、もうしばらくお待ちいただければと思います。

## (2) 宇宙基本計画(案)と宇宙基本計画工程表(案)について

### <事務局より説明>

○中須賀委員 現状を見据えて、非常に前向きで世界と勝負していけるような基本計画、工程表になったのではないかと思います。御尽力に感謝いたします。

私も基本政策部会、衛星開発・実証小委員会、産業基盤ワーキンググループの

立場でいろいろ議論に参加させていただきました。今回は、具体的にどうい  
ことをやっていくかということに特に注力して議論してきたというイメージ  
がございます。

それから、もう一点、何をいつまでにやるかということと、もう一つ大事な  
のは、どういやり方で進めていくか。この辺も随分先ほどの委員会で議論して  
まいりました、例えば実証の回数をどんどん増やしてスピード感を持って対応  
していくとか、それから、強い企業をどんどん力強く支援して、これが世界で勝  
負していくようにするとか、幾つかそういったことがございます。そういった  
ことも、ぜひどう進めるかということをする中で常に見られるような、こうい  
うことを議論したよねということが見られるような形で展開していただければ  
と思うところでございます。

とにかく御苦労さまでした。これからいよいよインプリメンテーションを頑  
張っていきたいと思います。よろしく願いいたします。

○片岡委員 中須賀委員と同じような意見なのですけれども、本当に大変御苦  
労さまでした。項目表と言って厳しい意見を言ったのですけれども、非常にい  
い形で、5～6年ずっと見た中で、非常にいいパターンで整理をされた。これ  
でやっと工程表になった。いい工程表なものですから、なかなかよくないと  
ころも目立ちますので、それはできれば概算要求が済んで12月に向けてさらに  
頑張っていたいただきたいなど。そうすれば、これは自分たちの工程表である  
とともに、いろいろなこれからの我が国の宇宙政策の方向性みたいなものが各メ  
ーカーなどもきちんと先見性を持って捉えることができると思いますので、ぜひ  
引き続き頑張っていたいただきたいと思っています。

あとは、どうしてもこれからこの工程表を作ってスピード感というのが、や  
はりスピードがないと負けてしまいますので、ぜひスピード感を持ってやって  
いただきたいなど。

本当に各省庁、内閣府、局長をはじめ、若手の方が相当頑張ったと思いま  
すので、本当に御苦労さまでした。引き続き12月に向けて頑張っていたきたい  
と思いますので、よろしく願いします。

○栗原委員 今回、宇宙基本計画について、パブリックコメントを踏まえて若  
干修正をしていただいたということですが、パブリックコメントにおいても前  
向きなコメントが多かったようで、この議論に加わった人だけではなく、受け  
止めもよかったのではないかと思います。

今回の宇宙基本計画の中に、言葉として、スペース・トランスフォーメーシ  
ョンという言葉を入れていただいた。これにより、官民合わせた気運醸成に繋が  
り、あるいはこの言葉は民間においても共通のキーワードになっていくのでは  
ないかと思っていますので、これを契機にさらに気運醸成を進めていただきたいと

思います。

工程表についてですが、これからブラッシュアップは一部ありますけれども、今回基本計画に合わせて、かなり変わり、具体的な4つのアプローチに沿った再整理と対応関係を明示していただいたことは大変意義深いと思います。各施策が政策の中でどう位置づけられているかということを確認しながら進めていただきたいと思います。

まさに宇宙だけなのです、工程表が全省庁横断的に一つにまとまって進めているのは、これは非常に分かりやすいですし、いろいろな連携がないと進まないプロジェクトだと思いますので、ぜひこれを皆さんでブラッシュアップし、時点時点でチェックしながら進めていけるようなものにしていけたらなと思います。

○鈴木部会長 既に皆様もおっしゃられたとおりだと思うのですが、やはりこれだけの基本計画、工程表を作成された皆様の御尽力に大変感謝いたします。

今回、工程表の中で文言のところで基本計画からの抜粋というのが入ったというのは、非常に重要なことだと思っております。これまで工程表というのは何となく工程表だけが独り歩きするとか、浮いている感じがなきにしもあらずだったのですが、これがきちんと基本計画の中にアンカーされているということで、いわゆる5W1Hの誰が何をいつまでにやるのかということがはっきりするだけではなくて、どうやってやるのかということも基本計画とのつながりで出てきた。その中で、やはり5W1Hの中で言うと、やはりなぜそれをやるのかというところの説明が、基本計画の中では前文というか1ポツ、2ポツのところ環境認識と目標という設定があるのですが、それと具体的なプログラムとのリンクをどうやって強めていくのか。ないわけではないのですが、やはりそこをもう少し、工程表と基本計画を結びつけたように、なぜそれをやるのかということと具体的なプログラムということが結びつくような方向性を、今回の基本計画はこれでいいと思うのですが、将来的にそうしたものをよりはっきりと出せるようなプレゼンテーションになっていければなという期待をしております。

○篠原委員 非常に多方面の意見を1か所にまとめていただいて、本当に御苦労さまでした。非常に素晴らしいものができたと思っておりますが、これは私の中ではスタートだと思っていまして、ここから先の運用をなるべく柔軟に、例えば10年たてば多分世界は変わっていますので、これで10年後までずっと行ってしまわれるのもなんだと思いますし、今日の前半みたいな負の要因もあるかもしれませんので、ぜひ運用は柔軟にやっていただきたいと思います。その背後にあるのは、私の経験上、この国の人たちはロードマップをつくと安心するので

す。ロードマップがあるから、そのとおりやれば世界はそうなるみたいな質問をよく学会や一般講演でやたらと受けまして、ネタにしているのですが、未来は自分でつくれと。そのほうが手っ取り早いという心構えをなかなかこの国の人たちは持ちにくい印象があるので、これにこだわりすぎないように、運用面でぜひ適宜やっていただければと本当に思います。お疲れさまでした。

○遠藤委員 皆様と同じくですが、本当にお疲れさまでございました。各省の御尽力と内閣府の事務局の皆様の御尽力に本当に敬意を表したいと思います。

矢羽の中の括弧につきましては、極めて素晴らしいと思います。こうやって内側で必ず時限を切っていくという方向性で進めていただきたいと思いますし、中には新しい省庁がこの中に参加してきているという赤字があります。これも非常によいことだと思いました。

準天頂のところですが、よくぞ11機体制ということをごこの中に入れられたなど。素晴らしい成果だと思っていますが、ここに検討と書いてありますので、この検討を外すことがまず大事だと思っていますし、この矢印が内側に寄っていくということを次の計画の中で必ず達成したいと強く思った次第でございます。

○石田委員 ここまでの取りまとめ、本当にありがとうございました。

私もいろいろ議論に参加させていただいて、非常に印象的だったのが、今回、今日も御参加いただいている各省の横連携が非常にこの議論の中で取れてきた基本計画だなどと思っております、本当に政府を挙げた一つの大きな計画になったのかなと思っています。そういう意味で、これから概算要求と併せて工程表の具体化をしていく中で、ぜひ横連携が、この結束力が維持されるように、ぜひこれからもしていただければなと思っていますし、そういったことを委員会等でもサポートできればいいのかなと思っています。

もう一点、やはり今後の宇宙政策を考えると、国際連携というのがどんどん重要になってくると思いますので、計画をつくる、実行するのと同じぐらい、やはり国際社会に日本のスタンスを発信するというのがより重要になってくるかなと思いますので、政府レベル、JAXAさんあるいは産業界それぞれがそれぞれのコミュニティで日本の考え、スタンスというのを明確にしていくことが大事かなと思うので、ぜひそれも実行の中で発言というのもできればと思っています。

○漆間委員 各委員の皆様方が御発言されたとおりでと思います。この中で基本スタンスがはっきりとされて、内閣府を中心に各省庁が連携されながら資料が出来上がってきたということでございます。その中で、具体的なアプローチがまたはっきりと書かれているということが非常に分かりやすくなったのだと思います。この中で、予算措置が行われないと実行できていけないというもの

と、それから、矢羽根は今年度からスタートした状態になっていますので、例えば契約制度の問題ですとか予算措置がなくても今からでも進められるというようなものもこの中にはいろいろと含まれていると思いますので、その辺を優先順位をつけながら、今から取組ができるものについてはぜひ実行も具体的に進めていただければと思います。

○南委員 工程表の取りまとめ、本当に広範囲なところ、お疲れさまです。本当にありがとうございます。今までのものより小項目が入ってきて、分かりやすくなってきたと思います。

次のステップとしてですが、篠原委員もおっしゃりましたが、運用していくことが非常に大事だと思っていて、以前の議論でなかなか部外から見て私のほうで理解が難しかった点として、毎年毎年計画が順調に進んでいるのかどうなのか、遅れがあるのかというところが下の文章のほうに今後改訂していくときに出てくるかと思うのですが、そういったことを分かりやすくしていただき、フレキシブルにこの工程表の議論ができるようになるといいと思います。

○白坂部会長 まずは今回この基本計画、工程表の改訂、本当にお疲れさまでした。ありがとうございます。事務局の方、あとは本当に各省の方々にも大変時間をお使いいただき、連携していただき、すごくいいものができたかなと思っています。中身のよさも今まで皆さんがおっしゃってくださったので、同じことを言うのは繰り返すようになりますけれども、パブリックコメントの段階でもいろいろな人からコメントを受けております。前向きにコメントをくださっている方がすごく多くて、すごく分かりやすくいいものになったのではないかという意見をたくさんいただきました。

特に今回、幾つも工夫をこれまでと違うところでされています。もちろんこれまでの工程表も苦労しながら作ってきたのもずっと見ておりますので、やはりこれまでの努力の上にさらなる工夫が加わってきて、本当にすごくよくなってきたと思っています。ですので、今回は確かに大まかな矢羽根のままのものもたくさんありますけれども、それを埋めなくてはいけないとか分割しなくてはいけないのだということを認識できるところまで来ていることも既に新しいことかと思っていますし、その段階のときに、この基本的スタンスというものをちゃんと加味しながら分割していかなくてはいけない、具体化していかなくてはいけないのだというこれからの進め方の中心になりそうなこともちゃんと議論ができて明確化されたかなと思っています。基本計画、工程表はいつもすごい時間をかけて作るわりには意外と早く改訂をしなくてはならないタイミングが毎回来ていまして、これもそんなに長い間は持たないかもしれないなと思ったときに、やり方の確立が一つできたということと、本当に先ほど石田

さんが言われたとおり、各府省がすごく連携ができて、これだけいいものができるのだということが分かったということは大きな成果かなと思っております。

実行上はまだまだやらなければいけないことも中を見ると本当はたくさん書いてありまして、これからやらなくてはいけないこともすごく多いなと思いつつも、まずはやはりここまでいいものができるということに対して感謝をしたいと思っております。本当にお疲れさまでした。

○櫻井委員 宇宙基本計画もそうですし、工程表もそうですけれども、この行政は文章が上手。表現力があるということだと思います。

問題は、実質といいますか、行政の緊密度がまさに問題だと思います。言葉が足りない行政というのはたくさんあって、十分な自己表現ができないのが大半で、その逆なのだけれども、フロンティア分野なので、まずは言葉で引っ張っていくという側面もあるのかと思っております。

それから、パブコメなのですけれども、基本的に賛同意見が多かったと言っただけけれども、これも大半の行政はむしろそうではないのです。何をやっても褒めてもらえない。そういう中で行政は苦しみながら進んでいるところも多く、宇宙政策自体が成熟性を増してくると、いろいろな利害関係者がいて、いろいろと相反する状況というのが出てくるので、今後、これから宇宙政策というのが1段、2段成熟していくということが大きな課題なのだろうと考えております。

そういうことで、まずは最初の段階でこういうものができるということについてはよろしかったと思っておりますし、今後に期待をしたいと思っております。

○後藤委員長 僕のほうから1点質問なのだけれども、パブコメについて400件意見をいただいたということですが、意見をいただいた方の属性というか、どういう方がこういった意見を寄せられているのか、そこについて説明をしてください。

○滝澤参事官 会社の方がこれぐらいとか業界の方がこれぐらいというのは事務局的にまだ整理ができておりません。恐らくそこまで細かな話は分からないのではないかと思います。

○後藤委員長 しかしながら、少なくとも宇宙に関心を持っている国民の方がフェアな立場で書いているということは間違いのないわけですね。

○滝澤参事官 そこはおっしゃるとおりだと思います。

○櫻井委員 違うと思います。私が知る限りパブコメの実態は大体そういうものではないです。基本的に宇宙の話は夢っぽいところがあるので、利害関係者でない方もあるいは書いているかもしれないし、個人で書いていらっしゃる方もいるかもしれませんが、基本的にはどうですかね。インナーの人が多いというのが一般的な印象でありますので、そこは分析をしないと分からないのでは

ないかな。

○後藤委員長 しかし、インナーの人が多いのは僕は当然だと思うのだけれども、そういう中で今までに比べて賛同の声が大きかったと。今回の基本計画案について皆さんコメントしていただいているように、かなり今までの基本計画あるいは工程表に比べて充実しているというのは間違いないだろうから、そのところの評価は適正な評価と考えていいのかなと思っているのだけれども。

○櫻井委員 表現ぶりのところは特段の問題はないと思っております。

○後藤委員長 委員の皆様におかれましては、本日も様々な観点から御議論、御意見をいただきましてありがとうございます。

基本計画案と行程表案につきましては、皆さんのコメントにもありましたように、今回大変いろいろな御意見をいただいて、そして、今回の計画案と工程表案にまとまったわけでありまして、内容的にも非常に充実している内容だと思えます。この間の委員の皆さんの非常に御熱心な御議論、それから、関係府省の皆さんの大変な努力に対して心から感謝申し上げます。

それでは、今後、政府・与党プロセスに進んでいくこととなります。この点についてはよろしいですか。

(首肯する委員あり)

○後藤委員長 ありがとうございます。それでは、原案どおり了承いたします。

それでは、本日の合同会議の議題は以上であります。

事務局からコメントがあればどうぞ。

○滝澤参事官 本日も貴重な意見、それから、多数お褒めの言葉を頂戴しまして、本当にどうもありがとうございました。お言葉を励みに引き続き、実施のところ的大事でございますので、関係省庁の皆様がこの御議論いただきました宇宙基本計画をしっかりと実現していくために、事務局一同頑張っていきたいと思っております。

宇宙基本計画案、宇宙基本計画工程表の案につきましてはの御審議、誠にありがとうございました。

これをもちまして、基本政策部会との合同の会議を終わらせていただきたいと思います。本当にどうもありがとうございました。

それでは、大変恐縮でございますけれども、基本政策部会の委員の皆様方におかれましては、御退室をよろしくお願い申し上げます。

○後藤委員長 それでは、本当に本日は御苦労さまでした。ありがとうございます。

(3) 事務局より、資料3-1、3-2に基づき、宇宙安全保障構想(案)についての説明を行った。委員から以下のような意見があった。

○鈴木部会長 アーキテクチャのところですか。特に資料3-2で言いますと9ページの一番最初の行なのですが、軌道上サービスの話について、今の御説明では、また、この9ページにおいては、SDAの長期的・経済的運用に資するためという限定で説明がありますけれども、現時点ではそれが主たる目的として検討していくということによろしいと思うのですが、将来的にはこの軌道上サービスの技術というのはより広範な汎用性のある技術になると思いますので、我が国の産業競争力ですとか様々な衛星の競争力機能の向上ということに資するものであるということに留意しておきたいと思ってコメントさせていただきます。

○片岡委員 まずもって、本当に御苦労さまでした。これからどうやって宇宙を利用して、どうやって宇宙の安定化に貢献していくかというのを、基本的にそのものを一枚にアーキテクチャという形できちんと整備をしたので、これを見ればこういう方向に安全保障の宇宙の整備を進めていくということで、非常に大きな一歩だと思っています。本当に御苦労さまでした。

それと、これから宇宙においては多国間協力がベースですので、そういう意味で、この中でCombined Space Operations Initiativeのほうに参加を目指すということはまた大きな一歩だと思っていますので、引き続き御尽力をいただきたいと思っています。

何とかコメントですけれども、一つは、今回のものは構想になっていますので、本来だったら、戦略であったら戦略における原則的な事項、宇宙におけるアーキテクチャを整備した。それをどうやって宇宙領域で行動していくのかと。行動の原則みたいところです。多国間協力における原則、それから、宇宙における行動の原則みたいところを本来であれば書いておく必要があるのです。宇宙安全保障構想は内閣府のマスターではないような気がしますので、今後、自衛権のことも含めて、政府全体としてやっていく必要があるのかなと思っています。

それと一点、これは政府のほうで既にやっていると思いますけれども、これが多国間協力をやると、サイバーセキュリティ、それから、セキュリティクリアランスの話がどうしても出てきますので、そのクリアランスをきちんとやらないと多国間協力がうまく進まないということがございますので、引き続きその点については頑張ってくださいと思っています。

最後ですけれども、今回、安全保障構想ができましたので、これをアーキテクチャをどうやって進めていくかというのをより具体的に工程表のほうに反映していただければと思いますので、ぜひ12月を目指して頑張ってくださいと思っています。

本当に構想御苦労さまでした。非常にいい形になっていると思います。

○加藤参事官 まず、宇宙安全保障構想につきましては、国家安全保障戦略に示される政策的課題を具体化するというような枠の中でやっておりますので、最初に御指摘がありました、本来戦略であれば多国間協力の原則であるとか行動原則みたいなのを書くべきではないかというようなことですが、そこは枠の中でやっているということで御理解いただければと思っております。

それから、サイバーセキュリティですとかセキュリティクリアランスの問題は非常に重要な問題であるということは重々認識しております、極めて簡単にはございませんけれども、本文の6ページ目の頭のほうに、安全保障のためのアーキテクチャが備えるべき要件ということで、簡潔ではございますけれども、サイバーセキュリティ・情報保全といった記載をしてございますが、当然ながら、政府全体の動きなども踏まえながらも、宇宙に関してこういったところをきちんとやっていかなければ多国間協力はできないという御指摘もおっしゃるとおりですので、そこは引き続きしっかりと取り組んでまいります。

それから、アーキテクチャを具体化するという点で工程表をしっかりとというのは御指摘のとおりでございます、そこは構想には必ずしも事業計画的なものを書かないで、国家安保戦略と宇宙基本計画、工程表をつなぐものとして、その基本的な考え方みたいなものを示すものとして作成しようとしているものでございますので、ちょっと性質が異なるのですけれども、工程表のほうもしっかり進めてまいりたいと思っております。

○山川理事長 まずは、宇宙安全保障構想を策定いただきましてありがとうございます。個人的に極めて重要なものだと思っております。

まず、JAXAの役割の強化と書いていただきましてありがとうございます。しっかり皆様とともに進めていきたいと思っております。

私からこの後申し上げることは、JAXAの立場を越えて発言させていただきましても、今回3つのアプローチと具体的なアーキテクチャという形で一枚紙でお示しいただいて、非常に分かりやすくなっているのですけれども、なぜこういったアーキテクチャになったのかということを考える上でも、具体的にどのように運用していくのかと。先ほど片岡委員からは行動原則という話がありましたけれども、どのようにこれらを使って運用していくのか、特に米国あるいは同盟国・同志国とともに運用していくに当たって、我が国として備えるべきものは何なのかということが恐らく具体的な運用構想の中でもう少しはっきり示されていくのではないかと想像いたしますので、3つのアプローチとアーキテクチャの間の部分がすごく重要になるのではないかと認識しております

それから、既にコメントがございましたけれども、私の中ではCSp0 (Combined

Space Operations)に加盟していくということは極めて重要だと思っております。これはそもそも我が国の宇宙安全保障能力の最大化という観点もございますし、全体的に多国間の中でいかに我が国のシステムを効率化していくのか、効率的に取り組んでいくのかというところで、CSp0に加盟することがその先鞭をつけていくということになっていくと思っております。よって、CSp0あるいは机上演習等に取り組んでいくことによって具体的な運用、それが最適なアーキテクチャにつながっていくのではないかと思います。

○白坂部会長 まず、この宇宙安全保障構想をつくっていただき、本当にありがとうございます。すごく大切な文書が出来上がってきたなと認識しております。

一つ、これは質問なのですが、これで宇宙に係る文書がまた増えたということがあったときに、どこかにどう関わっているのかというのが何か一枚紙で外の人たちが分かるようになっていない。我々は中身をずっと知っていて議論しているので、もちろんここに書いてあるのは目標と将来像のところ、宇宙基本計画ではこんなところに入ってきてみたいなのイメージはもちろんすぐに湧くわけですが、一方で、外から見た人たちが文書間の関係性はどうなっているのだろうみたいなことが、何かまとまっているものはどちらかにあるのかというのが質問になります。

○加藤参事官 白坂先生の御質問につきましてですが、どういう関係になっているかというものをすっきりとまとめた一枚紙みたいなものはまだできてはおりません。他方で、先ほどの基本計画でもございますけれども、要は国家安保戦略を受けまして、基本計画に向けてその間をつなぐ文書としてこの宇宙安全保障構想というのをつくっておりますので、その旨は簡単にはそれぞれの文章の中には記載してございますが、より一般の方にも御理解いただきやすく、何かしら説明ぶりとかあるいは文章とかを考えておきたいとは思っています。

○白坂部会長 質問をさせていただいたのは、これだけを別で独り歩きさせて、こちらと基本計画とか工程表との関係性がごちゃごちゃにならないようにするのがいいかなと思ひまして、これはすごく重要な役割を担っているのはもちろん認識しておりますし、これからも多分ずっと重要な位置づけで存在し続けていくのだろうなと思ったときに、何となくそういった位置づけが明確になっていたほうが、後任の方々からも分かりやすいですし、外から見ても分かりやすいかなと思ひまして質問させていただきました。

○篠原委員 本日のこの安全保障構想については、まとめていただいてすばらしいなというコメントなのですが、白坂先生のコメントに近く、かつちょっと話が大きくなるかもしれませんが、宇宙基本計画も安全保障の話が今一番に来ましたよね。逆にコンタミを起こして、宇宙という政策がこちらに引きずられ

るのはちょっとどうかなと前々から思っておりまして、それは例えば学術の世界ですとか、民間の交流の世界ですとか、もしかしたら国際宇宙ステーションのようなものもあるかもしれませんし、同志国・同盟国がそれ以外とあまりやらないみたいな雰囲気を感じておりまして、宇宙というものはもっと幅広いものであるべきで、場合によってはそういう幅広い協力、多国間協力もあるはずですので、最近、政策委員会はこの話題がやたらと多いので、私たちも気持ち引きずられかけているのですが、宇宙というのはある程度もっと大きな枠組みがあって、その中の安全保障であって、それ以外の宇宙もたくさんあるのだということを、どこにどう書けという話ではないのですが、内閣府宇宙政策としてはぜひ肝に銘じておいていって進めたいなと思っております。

○櫻井委員 今のお二方の議論と関わると思うのですが、こちらの宇宙基本計画のほうの4ページ目に宇宙安全保障構想の赤字で付け加えたところがありますよね。この文章は主語が書いていないのですが、そこはどういうふうに書きますか。日本語としては少しおかしいので、直したほうがいいと思います。21行目の赤字のところ。「新たに宇宙安全保障構想を策定し」というのは誰が策定したのかというところを正確に書かないとまずいのではないですか。

○河西局長 策定主体は宇宙開発戦略本部決定になりますので、この紙は事務局と今日なっておりますけれども、宇宙開発戦略本部ということになります。したがって、ここは日本語の不分明なところではありますが、「明らかにした」というのは宇宙開発戦略本部ということに、基本計画は閣議決定ですから、宇宙戦略本部が明らかにしたということなのですかね。そこにおいて決定したとか、そういうのが確かに正確ということかもしれません。失礼しました。これは閣議決定なので政府全体、構想のほうは閣議決定ではなくて開発本部でございますので、それが分かりやすいような形で表記をそれだけ修正させていただくようにいたします。

○遠藤委員 すばらしいものができたと感じております。私にとりましては、やはり宇宙の中で安全保障は一丁目一番地だと思っておりますし、民間技術を率いていくのもやはり安全保障だと思っておりますので、こういうものができてきて認知されるということは非常に重要だと思っております。

1点だけ質問で、さっき御説明の中で、7ページの重要技術の自律性の確保の御説明の中に宇宙に関連する技術をピックアップして宇宙技術戦略をという御解説があったと思うのですが、これはまた別途宇宙技術戦略みたいなものを練る御準備があるという理解でよろしいのでしょうか。そうだとすると、それはまたすばらしいことだと思っております。

○滝澤参事官 基本計画の今回の目玉の一つが技術戦略でございまして、安全保障の文脈ももちろんそうですけれども、篠原先生がおっしゃったように普通

の知の探求みたいな話も含めて、宇宙は非常に幅広うございます。こちらは両方横にらみで、しっかり関係省庁の皆さんと何が本当に求められるのか、その中で共通部分もたくさんございますので、限られた予算をしっかりと効率に使えるように、オール霞ヶ関、そして、民間の皆さんも含めて、国全体として効率的にしっかりと研究開発を進めていくための戦略というのをつくっていかうということで、今回の基本計画の大きな柱の一つということでこれからしっかりと準備を進めてまいりたいと思っております。

○遠藤委員 時期としてはどのぐらいのイメージなのでしょうか。

○滝澤参事官 鋭意作業中なのですが、少なくとも来年度概算要求に向けて何がしかの、完璧なものはないかもしれませんが、どういうものに取り組む方向性みたいなことができるといいなと思っております。

○後藤委員長 要するに関係省庁を巻き込んでかなり議論していると。そういう意味では、縦割りではなくて非常に横断的な議論ができています。宇宙基本計画も今回そういう評価がかなりあったと思うのだけれども、やはりそういうプロセスは非常に大事だと思います。

○滝澤参事官 こういうプロセスを始めること自体も一つの技術戦略を作る目的でございましたので、関係省庁の皆さんと腹を割って議論を始められているということは大変うれしいことだと思っております。

○後藤委員長 それでは、委員の皆様におかれては、本日も様々な観点から御議論ありがとうございました。

安保構想案につきましては、これまでの議論に沿った内容になっていると思います。今後、政府・与党プロセスに進んでいくこととなります。この点についてはよろしいでしょうか。

(首肯する委員あり)

○後藤委員長 ありがとうございます。それでは、原案どおり了承いたします。

それでは、事務局のほうで何かあればお願いします。

○滝澤参事官 本日も早朝から基本計画、工程表、そして、構想ということで御議論いただきまして、どうもありがとうございました。昨年の夏から極めてタイトなスケジュールの中、お時間を御多忙の中頂戴いたしまして、本当にありがとうございます。

○後藤委員長 それでは、本日の委員会はこれで閉会いたします。

以上